

報告書

2005年8月8日

債権者代理人 柳原敏夫



目次

- 1、報告のテーマ——圃場の現状——
- 2、結論——トンボが飛び、昆虫・小動物の出入り可能な隙間——
- 3、その意味——ディフェンシン耐性菌の流失・伝播——

1、報告のテーマ

本年8月2日現在の本野外実験の圃場の状況がどのようになっているかを報告し、なおかつそれが持つ重大な意味について報告します。

2、結論

本年8月2日、新潟総合生協の執行役員長谷川均氏ら5名と共に、本GMイネの実験の中止を求める署名を債務者の北陸研究センターに届けた（この日現在で、累計約3万6000名分）際、長谷川氏が債務者に「ついでに、野外実験の圃場を見学しても構いませんか」と申入れし、了解を得たので、そのあと、本野外実験の圃場を見学することになりました。

そのときの様子を撮影したのが別紙1～3の写真です。

圃場の内部に沢山のトンボが飛んでおり、別紙1にはその様子的一端が写し出されています。

また、圃場の地面の部分には、ネットと地面（別紙2の赤の矢印部分）や排水口（別紙3の赤の矢印部分）との間に隙間があり、そこから、昆虫やネズミ等の小動物が出入りできるだけのスペースがあることが判明しました。

3、その意味

圃場内に沢山のトンボが飛んでおり、なおかつ圃場の地面の部分にネットと地面または排水口との間に隙間があり、そこから、昆虫やネズミ等の小動物が出入りできるだけのスペースがあるという事実が何を意味するかは、疎甲80の金川陳述書(2)の3頁以下に詳述されている通りですが、今、結論だけ繰り返せば、本野外実験の圃場内においては、重大な脅威となり得るディフェンシ

ン耐性菌が容易に出現する可能性が高いにもかかわらず、こうした昆虫やネズミ等の小動物が出入りできる環境にある以上、出現したディフェンシン耐性菌が、既に、これらの昆虫やネズミ等を通じて容易に外部に流失・伝播している可能性が高いという事実です。

この問題が、本野外実験においては、花粉の交雑防止策以上に深刻で重大な問題であり、本野外実験の違法性判断に最も影響を及ぼす問題であることを、改めて、強調しておきたいと思えます。

以 上

別紙 1



別紙 2



別紙 3

